

情報

交流ひろばと生活情報

32人が参加し旧交を温める

東洋大学校友会熊本県支部



東洋大学の県内在住同窓生で組織する東洋大学校友会熊本県支部（菊田廣文支部長）は10月7日、熊本市下通りの郷土料理「青柳」で2011年度支部総会を開催した。菊田支部長は「大学は明るい話題が多く、今日は楽しんでください」とあいさつした。



菊田 廣文 校友会熊本県支部 支部長
秀蔵 松本 学園 理事長

平均年齢46歳の新クラブ結成

熊本城東ライオンズクラブ



熊本城東ライオンズクラブ（松田博彦会長）は7月23日に結成。9月29日に熊本ホテルキャッスルで250人が出席し、認証状伝達式を開いた。同会は時代に合った方法でクラブ運営をしようと、インターネット例会を取り入れ、会費は低額にして運営費を極力抑え、全員が参加でき・感動を覚えるようなアクトをすることを目標としている。会員は27人。平均年齢は46歳。



松田 博彦 会長

ベトナムの企業に甘酒の卸を開始

貝島商店

味噌、醤油など製造販売の(株)貝島商店（熊本市迎町、貝嶋博信社長）は12月から、ベトナムの企業に甘酒の卸を開始する。海外企業との商談会で、ベトナム・ハノイにある高所得者や外国人向けのスーパーマーケット「PCS C」との商談が決まり始めるもの。卸す商品は、同社が開発したフリーズドライタイプの甘酒「おちちあまざけ」をPRした貝嶋専務



▲貝嶋慶治専務。手に持つのはフリーズドライタイプの甘酒「おちちあまざけ」



「おちちあまざけ」の他、さまざまな商品をラインナップしている同社

生活

「香梅アートアワード」にキルト作家の島田さん

お菓子の香梅

(株)お菓子の香梅（熊本市白山1丁目）は11月15日、熊本ホテルキャッスルで「第3回香梅アートアワード」の贈賞式を開いた。同賞は、優れた創作活動を続ける県内出身や在住の女性芸術家を顕彰する芸術賞として、同社が2009年に創設。第3回は、長年の業績に対し授与される香梅アートアワードにキルト作家の島田清美さん（63歳、



▲お菓子のトロフィーを手にする島田清美さん（左）と蔵野由紀子さん（右）



南島 宏 前熊本市 現代美術館館長



▲熊本ホテルキャッスルで開かれた贈賞式

シリーズ コミュニケーション講座

魅力ある人間力アップに向けて (第5回)

人は、ひとりでは生きて行けません。さまざまな形で支えあって生きています。それぞれが持つエネルギーを見つめ、引き出し、引き出す。コミュニケーションは、人と人をつなぐ原点ともいえます。家庭、職場、近所付き合い、友人との付き合い、その全てがコミュニケーションであり、人生を楽しむこと、エネルギーアップにもつながります。ここではさまざまなコミュニケーションのとり方についてアドバイスをします。

小さな幸せ発見



コミュニケーション アドバイザー 津川 育子

「人はつねに自分の幸福を望むものだが、その幸福を見分けることはできない」 この言葉は、よく中学校の社会の時間に耳にした『社会契約論』を書いたジャン・ジャック・ルソーが残したものです。この言葉の意味が、今ならば私にも、分かる気がしています。 2011年3月11日、日本は未曾有の大災害に見舞われました。地震や津波が東北を直撃した時私は熊本でいつも通りの生活をしていました。偶然つけたテレビには、まるで日本ではないような光景が映し出され、凍りついてしまったのを覚えています。 私の息子と娘は、現在、東京で暮らしています。大きな揺れが東京にも来たと聞き、思わず携帯を手に取り、震える指でメールボタンを押しました。あの時、私はただただ子ども達の無事を祈っていました。 当たり前に一緒にいる家族。時に相手を邪険に思ってしまったら、思いが通じないもどかしさに苛立つてしまったり。コミュニケーション

の取り方で悩みを抱えている方は、私自身も含め、たくさんいらっしゃいます。 ルソーが、どんな想いを込めて、この言葉を残したのかはわかりませんが、けれど、彼の言葉の通り、私達はより多くの幸福を望みます。今日よりも明日、明日よりも明後日、ずっと幸福であるように。 しかし、もしかしたら、私達は、大きな幸せを望むばかりに、身近な幸せに気付く事が出来ていないのかもしれない。 新しい年が始まります。未だ地震や津波の爪痕が残る地に暮らす方々の中には、新しい年を迎え、それを祝う気持ちにはなれないという方もたくさんいらっしゃると思います。けれどそんな今だからこそ、自分の近くにある小さな幸福を探すことが出来るのかもしれない。大切な人と一緒に、生きていられるということ。 私自身にとっても、その小さく、けれどとても大きな幸福を見つけて一年にしたいと思っています。

(筆者プロフィール) コミュニケーションアドバイザー。大学卒業後、ニチイ学館近代経営研究所などの勤務を経て平成10年10月財成成サポートを設立。22年2月に法人化。子育て・親子のコミュニケーションの勉強会・講座を随時開催。熊本県民力レジン主催講座サテライト教室子育て応援講座などの講師も勤めている。県内各地での講演も多数。美里町教育委員。子どもは3人。著書として「愛の小箱」(夫の闘病と家族模様)がある。